

亀山・関テクノヒルズ開発事業  
に係る事後調査報告書

報 告 書

平成22年 3月

住友商事株式会社



## はじめに

本報告書は、亀山・関テクノヒルズ開発事業の実施にあたり、「(仮称) 亀山・関テクノレジダ  
ンス・(仮称) 白川スカイヒルタウン開発計画に係る環境影響評価書(平成5年10月)」(以下、  
「評価書」という)及び「亀山・関テクノヒルズ開発計画に係る環境影響評価調査検討報告書(平  
成7年3月、平成14年4月、平成14年9月、平成15年4月)」に記載した「環境保全のための  
モニタリング計画」に基づき、施設供用後に行うとした事後調査結果のうち、平成21年度実施分  
をとりまとめたものである。



## 目 次

第1章 事業の概要	1
1. 事業者の氏名及び住所	1
2. 対象事業の名称、種類及び規模	1
3. 対象事業実施区域	1
4. 対象事業の進捗状況	1
第2章 本調査の位置付け	4
第3章 第1期工区の供用後に係る事後調査	7
1. 水 質	7
1-1 調査概要	7
1-1-1 河川水	7
1-1-2 雨水排水	13
1-1-3 水道水源	15
2. 悪 臭	20
2-1 調査概要	20
2-2 調査年月日及び調査内容	20
2-3 調査地点	20
2-4 調査項目及び分析方法	22
2-5 調査結果	22
3. 特筆すべき植物	24
3-1 調査概要	24
3-2 調査年月日及び調査内容	24
3-3 調査位置	24
3-4 調査結果	26
4. 陸生動物（鳥類相）	27
4-1 調査概要	27
4-2 調査年月日及び調査方法	27
4-3 調査範囲及び踏査ルート	27
4-4 調査結果	29
4-5 鳥群集の多様度	30
5. 特筆すべき動物	32
5-1 調査概要	32
5-2 オオタカ	32
5-2-1 調査年月日及び調査方法、調査対象種	32

5-2-2	調査地点及び調査範囲 .....	32
5-2-3	調査結果 .....	33
5-3	モリアオガエル .....	35
5-3-1	調査年月日及び調査内容 .....	35
5-3-2	調査場所 .....	35
5-3-3	調査方法 .....	35
5-3-4	調査結果 .....	36
第5章	事後調査を担当した者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在.....	39

# 第1章 事業の概要

## 1. 事業者の氏名及び住所

事業者の名称：住友商事株式会社

代表者の氏名：大阪不動産建設部長 楠木 啓之

所在地：大阪府大阪市中央区北浜4丁目5番33号

## 2. 対象事業の名称、種類及び規模

対象事業の名称：亀山・関テクノヒルズ開発事業

対象事業の種類：工業団地の造成事業

対象事業の規模：事業総面積 2,312,500m<sup>2</sup>（全工区）

## 3. 対象事業実施区域

三重県亀山市白木、関町白木一色及び鷺山地内他（図1-1）

## 4. 対象事業の進捗状況

本開発事業の進捗状況は以下のとおりで、それぞれの区画については、図1-2に示したとおりである。

平成14年4月より、第1期工区の第1期造成工事（準備・防災工）に着手し、平成15年5月に第1期工区の第1期・第2期（e-1・2の2区画、f区画、g区画、j-1・2の2区画、k区画）の造成工事が完了した。

平成16年7月からは、第1期工区の第3期（d-2～4の3区画）の工事に着手し、平成17年4月に造成工事が完了した。

平成18年4月からは、第1期工区の第4期（i-1・2の2区画、n-1・2の2区画、o-1～3の3区画、p-1～4の4区画）の工事に着手し、平成19年4月に造成工事が完了した。

また、平成15年8月から順次、施設の供用が始まり、平成22年3月現在、第1期工区のうち、「d-2～4の3区画」、「e-1・2の2区画」、「f区画」、「g区画」、「i-1区画」、「k区画」、「l区画」、「o-3区画」、「p-4区画」において、進出企業により施設の供用が開始されている。

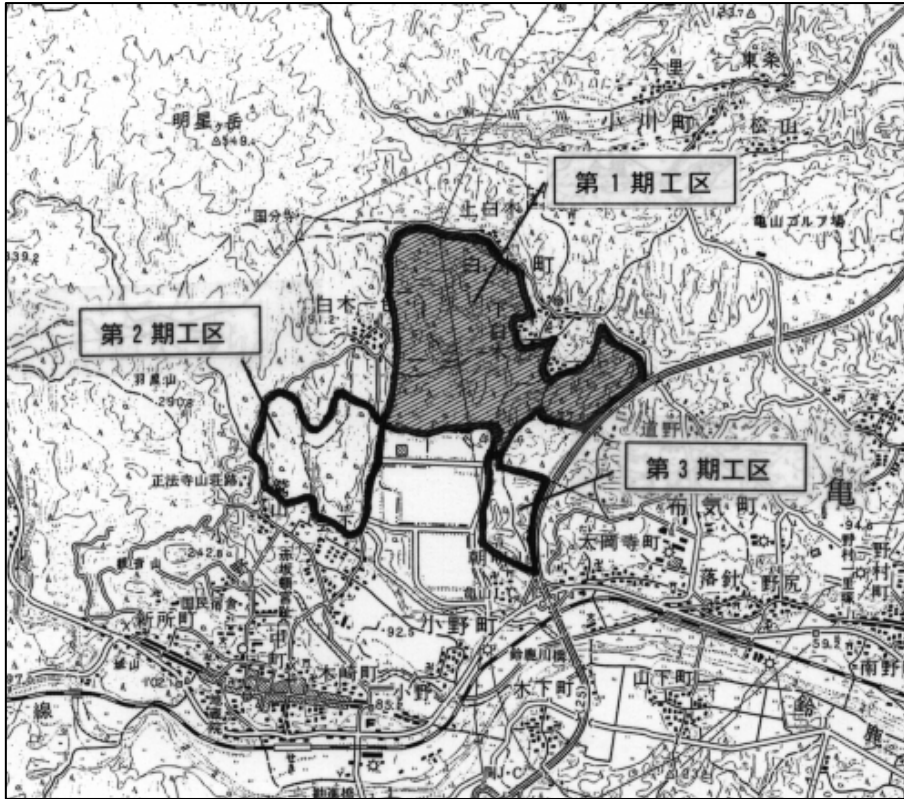


图 1 - 1 对象事業実施区域



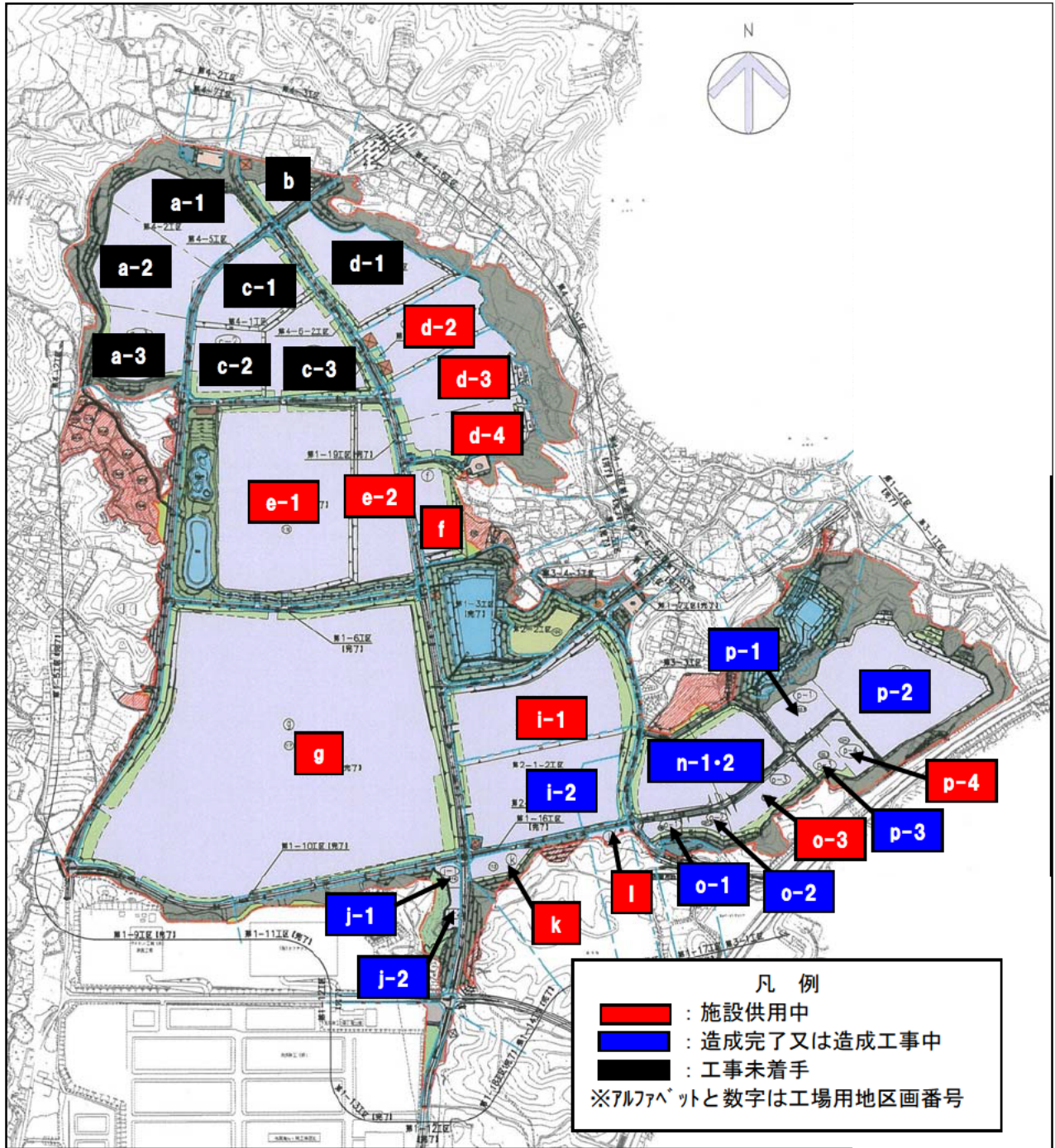


図 1 - 2 対象事業進捗状況図

## 第2章 本調査の位置付け

本調査は、表2-1に示したとおり、第1期工区の施設供用後（6年目）及び第1期工区の第3期区域供用後（5年目）、第4期区域供用後（2年目）の調査である。

表2-1(1) 調査一覧（第1期工区の第1期、第2期区域分）

	工事中	工事中及び 一部施設供用	施設供用後				
	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
大気質(工事中)	○						
騒音・振動 (工事中)	○						
濁水(工事中)	○						
水質(供用後)	○	○	○	○	○	○	○
悪臭(供用後)		○	○	○	○	○	○
特筆すべき植物	○ (移植)	○ (1年後)	○ (2年後)	○ (3年後)		☆ (5年後)	
特筆すべき植物 移植地管理	○	○	○	○	○	☆	
特筆すべき動物	○ (1年目)	○ (2年目)	○ (3年目)		○ (5年目)		○ (7年目)
特筆すべき 水生生物	○ (1年目)	○ (2年目)	○ (3年目)		○ (5年目)		○ (7年目)
動物相		○ (1年目)	○ (2年目)	○ (3年目)		○ (5年目)	

※：○は過年度分、●は今回報告分、◎は次年度以降報告分、☆は動植物調査の最終年度。

	施設供用後					
	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年以降
大気質(工事中)						
騒音・振動 (工事中)						
濁水(工事中)						
水質(供用後)	●	◎	◎	◎	◎	◎(継続)
悪臭(供用後)	●	◎	◎	◎	◎	◎(継続)
特筆すべき植物						
特筆すべき植物 移植地管理						
特筆すべき動物			☆ (10年目)			
特筆すべき 水生生物			☆ (10年目)			
動物相	● (7年目)			☆ (10年目)		

※：●は今回報告分、◎は次年度以降報告分、☆は動植物調査の最終年度。

表 2-1 (2) 調査一覧 (第 1 期工区の第 3 期区域分)

	工事中	施設供用後					
	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年
大気質(工事中)	○						
騒音(工事中)	○						
濁水(工事中)	○						
水質(供用後)		△	△	△	△	▲	△
悪臭(供用後)		△	△	△	△	▲	△
特筆すべき植物	△ (1年後)	△ (2年後)		△ (3年後)		★ (5年後)	
特筆すべき植物 移植地管理	△	△	△	△	○	★	
特筆すべき動物	△ (1年目)	○ (2年目)	△ (3年目)		△ (5年目)		◎ (7年目)
特筆すべき動物 (モリアカゲル)	○ (移植)	○ (1年後)	△ (2年後)	○ (3年後)		● (5年後)	
特筆すべき 水生生物	△ (1年目)	○ (2年目)	△ (3年目)		△ (5年目)		◎ (7年目)
動物相		△ (1年目)		△ (3年目)		▲ (5年目)	

※：○は過年度分、●▲★は今回報告分、◎は次年度以降報告分、△は第 1 期、第 2 期区域の調査で実施、☆は動植物調査の最終年度。

	施設供用後				
	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年以降
大気質(工事中)					
騒音(工事中)					
濁水(工事中)					
水質(供用後)	△	△	△	△	△
悪臭(供用後)	△	△	△	△	△
特筆すべき植物					
特筆すべき植物 移植地管理					
特筆すべき動物			☆ (10年目)		
特筆すべき動物 (モリアカゲル)	◎ (7年後)			☆ (10年後)	
特筆すべき 水生生物			☆ (10年目)		
動物相	◎ (7年目)			☆ (10年目)	

※：◎は次年度以降報告分、△は第 1 期、第 2 期区域の調査で実施、☆は動植物調査の最終年度。

表 2 - 1 (3) 調査一覧 (第 1 期工区の第 4 期区域分)

	工事中		施設供用後				
	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
大気質(工事中)	○						
騒音(工事中)	○						
濁水(工事中)	○	○					
水質(供用後)							
悪臭(供用後)							
特筆すべき植物	○ (移植)	△ (1 年後)	○ (2 年後)	▲ (3 年後)		☆ (5 年後)	
特筆すべき植物 移植地管理	△	△	△	▲	◎	☆	
動物相			○		◎		△

※：▲今回報告分、◎は次年度以降報告分、△は第 1 期、第 2 期区域又は第 3 期区域の調査で実施、☆は植物調査の最終年度。

	施設供用後				
	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
大気質(工事中)					
騒音(工事中)					
濁水(工事中)					
水質(供用後)					
悪臭(供用後)					
特筆すべき植物					
特筆すべき植物 移植地管理					
動物相		△			☆

※：△は第 1 期、第 2 期区域の調査で実施、☆は植物調査の最終年度。

### 第3章 第1期工区の供用後に係る事後調査

#### 1. 水質

##### 1-1 調査概要

施設の供用に伴い、施設からの排水が放流先河川である鈴鹿川及び水道水源に与える影響を把握するため、調査を実施した。

また、回復緑地に施肥される肥料中の窒素及びリンが降雨により流出する恐れがあるため、調整池出口において雨水排水調査を実施した。

##### 1-1-1 河川水

###### (1) 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表3-1-1に示したとおりである。

表3-1-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成21年 4月24日 平成21年 5月14日	生活環境項目
平成21年 6月17日	生活環境項目 健康項目
平成21年 7月15日 平成21年 8月19日 平成21年 9月 7日 平成21年10月21日 平成21年11月20日	生活環境項目
平成21年12月16日	生活環境項目 健康項目
平成22年 1月20日 平成22年 2月17日 平成22年 3月12日	生活環境項目

## (2) 調査地点

河川の水質調査は、図3-1-1に示した鈴鹿川の現況調査地点1地点において実施した。

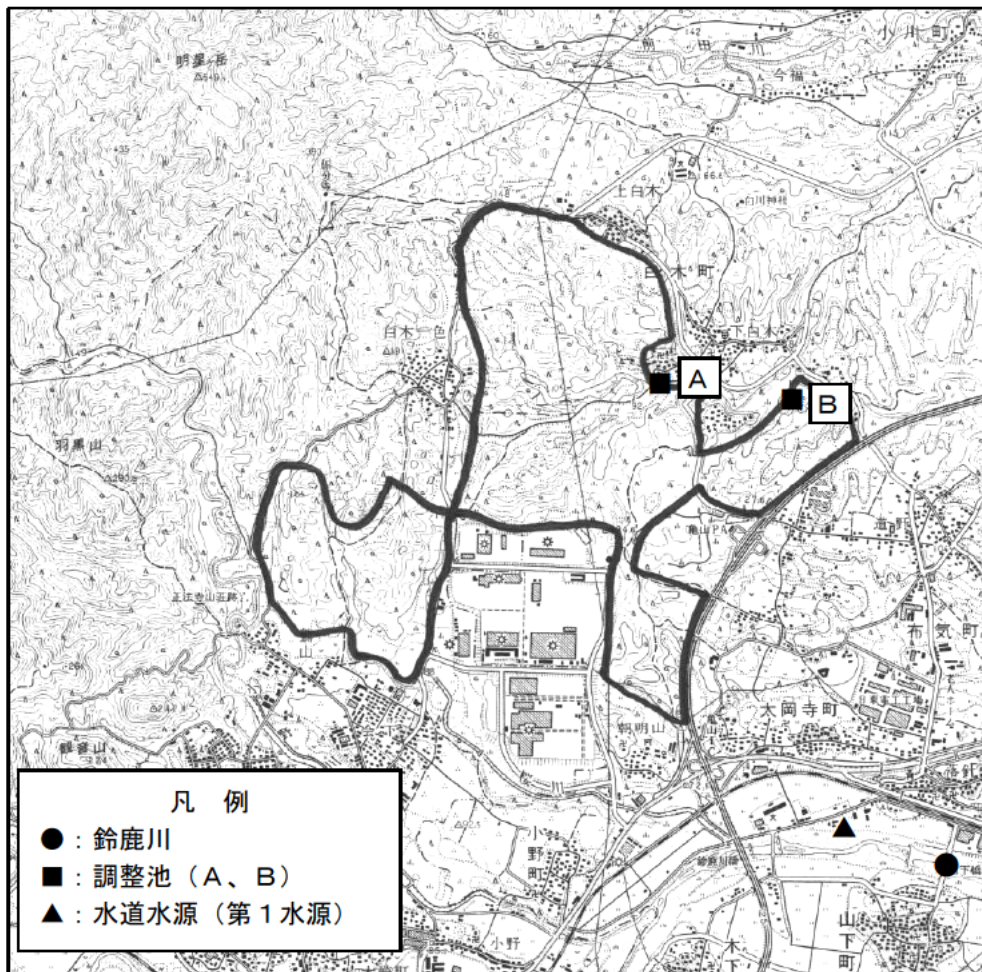


図3-1-1 水質調査地点

## (3) 調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は、表3-1-2に示したとおりである。

表 3-1-2 調査項目及び分析方法

調査項目		分析方法
生活環境項目	pH	JIS K0102 12.1
	BOD	JIS K0102 21 及び 32.3
	COD	JIS K0102 17
	浮遊物質 (SS)	昭和 46 環告 59 号付表 7
	n-ヘキサン抽出物質	昭和 46 環告 59 号付表 9
	全窒素	JIS K0102 45.4
	全燐	JIS K0102 46.3
	溶存酸素 (DO)	JIS K0102 32.1
	大腸菌群数	昭和 46 年環告 59 号別表 2
健康項目	ふっ素	昭和 46 環告 59 号付表 6
	ほう素	JIS K0102 47.4
	全シアン	JIS K0102 38.1.2 及び 38.3
	カドミウム	JIS K0102 55.3
	鉛	JIS K0102 54.3
	六価クロム	JIS K0102 65.2.1
	総水銀	昭和 46 環告 59 号付表 1
	アルキル水銀	昭和 46 環告 59 号付表 2
	砒素	JIS K0102 61.3
	セレン	JIS K0102 67.3
	PCB	昭和 46 環告 59 号付表 3
	チウラム	昭和 46 環告 59 号付表 4
	シマジン	昭和 46 環告 59 号付表 5 第 1
	チオベンカルブ	昭和 46 環告 59 号付表 5 第 1
	トリクロロエチレン	JIS K0125 5.1
	テトラクロロエチレン	JIS K0125 5.1
	四塩化炭素	JIS K0125 5.1
	1,1,1-トリクロロエタン	JIS K0125 5.1
	1,1,2-トリクロロエタン	JIS K0125 5.1
	ジクロロメタン	JIS K0125 5.1
	1,2-ジクロロエタン	JIS K0125 5.1
	1,1-ジクロロエチレン	JIS K0125 5.1
	シス-1,2-ジクロロエチレン	JIS K0125 5.1
	1,3-ジクロロプロペン	JIS K0125 5.1
	ベンゼン	JIS K0125 5.1
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	JIS K0102 43

#### (4) 調査結果

放流先河川である鈴鹿川の水質調査結果は表 3-1-3 に示したとおりである。

鈴鹿川（鈴国橋より上流）には環境基準の AA 類型が指定されており、今回の結果を環境基準と比較すると、大腸菌群数が全ての月で環境基準値を上回る値であったが、その他の項目については、同基準を満足していた。

また、健康項目の調査では、ふっ素、ほう素、硝酸性・亜硝酸性窒素を除く全ての項目で定量下限値未満であり、また検出された 3 項目についても、その値は小さく、それぞれ環境基準を満足していた。

採水の調査状況は資料編の写真 1-1-1～12 に示したとおりである。



表3-1-3(1) 水質調査結果(平成21年4月~9月)

項目	単位	環境基準※	平成21年					
			4月24日	5月14日	6月17日	7月15日	8月19日	9月7日
水素イオン濃度(pH)	—	6.5~8.5	7.7	7.8	8.1	8.1	8.1	8.2
生物学的酸素要求量(BOD)	mg-O/L	1mg/L以下	0.5	0.9	0.8	0.7	0.8	0.8
化学的酸素要求量(COD)	mg-O/L	—	2.2	1.6	1.9	2.1	1.7	2.1
浮遊物質(SS)	mg/L	25mg/L以下	3.7	<1.0	1.2	<1.0	<1.0	<1.0
n-ヘキサン抽出物質	mg/L	—	検出せず (0.5未満)	検出せず (0.5未満)	検出せず (0.5未満)	検出せず (0.5未満)	検出せず (0.5未満)	検出せず (0.5未満)
全窒素	mg-N/L	—	1.1	1.0	0.84	0.72	0.87	0.71
全リン	mg-P/L	—	0.067	0.038	0.025	0.028	0.015	0.016
溶存酸素(DO)	mg-O/L	7.5mg/L以上	11	9.6	9.3	8.9	8.2	9.8
大腸菌群数(MPN)	MPN/100mL	50MPN/100mL以下	790	330	4900	2400	1700	1300
カドミウム	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.001	—	—	—
全シアン	mg/L	検出されないこと	—	—	検出せず (0.1未満)	—	—	—
鉛	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.005	—	—	—
六価クロム	mg/L	0.05mg/L以下	—	—	<0.02	—	—	—
砒素	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.005	—	—	—
総水銀	mg/L	0.0005mg/L以下	—	—	<0.0005	—	—	—
アルキル水銀	mg/L	検出されないこと	—	—	検出せず (0.0005未満)	—	—	—
PCB	mg/L	検出されないこと	—	—	検出せず (0.0005未満)	—	—	—
セレン	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.002	—	—	—
ふっ素	mg/L	0.8mg/L以下	—	—	0.10	—	—	—
ほう素	mg/L	1mg/L以下	—	—	0.03	—	—	—
トリクロエチレン	mg/L	0.03mg/L以下	—	—	<0.002	—	—	—
テトラクロエチレン	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.0005	—	—	—
ジクロロメタン	mg/L	0.02mg/L以下	—	—	<0.002	—	—	—
四塩化炭素	mg/L	0.002mg/L以下	—	—	<0.0002	—	—	—
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.004mg/L以下	—	—	<0.0004	—	—	—
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.02mg/L以下	—	—	<0.002	—	—	—
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.04mg/L以下	—	—	<0.004	—	—	—
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	1mg/L以下	—	—	<0.0005	—	—	—
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.006mg/L以下	—	—	<0.0006	—	—	—
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.002mg/L以下	—	—	<0.0002	—	—	—
ベンゼン	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.001	—	—	—
シマジン	mg/L	0.003mg/L以下	—	—	<0.0003	—	—	—
チウラム	mg/L	0.006mg/L以下	—	—	<0.0006	—	—	—
チオベンカルブ	mg/L	0.02mg/L以下	—	—	<0.002	—	—	—
硝酸性・亜硝酸性窒素	mg/L	10mg/L以下	—	—	0.8	—	—	—

※:「水質汚濁に係る環境基準について(昭和46年12月28日、環境庁告示第59号)」

表3-1-3(2) 水質調査結果(平成21年10月~平成22年3月)

項目	単位	環境基準※	平成21年			平成22年		
			10月21日	11月20日	12月16日	1月20日	2月17日	3月12日
水素イオン濃度(pH)	—	6.5~8.5	7.4	7.5	7.6	7.6	7.6	7.6
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg-O/L	1mg/L以下	<0.5	0.7	0.8	1.0	0.9	1.1
化学的酸素要求量(COD)	mg-O/L	—	1.2	1.5	1.4	0.7	1.7	2.5
浮遊物質(SS)	mg/L	25mg/L以下	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0
n-ヘキサン抽出物質	mg/L	—	検出せず (0.5未満)	検出せず (0.5未満)	検出せず (0.5未満)	検出せず (0.5未満)	検出せず (0.5未満)	検出せず (0.5未満)
全窒素	mg-N/L	—	1.3	0.99	1.0	1.3	1.1	0.97
全リン	mg-P/L	—	0.012	0.011	0.008	0.013	0.016	0.010
溶存酸素(DO)	mg-O/L	7.5mg/L以上	9.6	11	11	12	12	12
大腸菌群数(MPN)	MPN/100mL	50MPN/100mL以下	2100	1300	330	700	460	790
カドミウム	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.001	—	—	—
全シアン	mg/L	検出されないこと	—	—	検出せず (0.1未満)	—	—	—
鉛	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.005	—	—	—
六価クロム	mg/L	0.05mg/L以下	—	—	<0.02	—	—	—
砒素	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.005	—	—	—
総水銀	mg/L	0.0005mg/L以下	—	—	<0.0005	—	—	—
アルキル水銀	mg/L	検出されないこと	—	—	検出せず (0.0005未満)	—	—	—
PCB	mg/L	検出されないこと	—	—	検出せず (0.0005未満)	—	—	—
セレン	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.002	—	—	—
ふっ素	mg/L	0.8mg/L以下	—	—	0.08	—	—	—
ほう素	mg/L	1mg/L以下	—	—	0.02	—	—	—
トリクロエチレン	mg/L	0.03mg/L以下	—	—	<0.002	—	—	—
テトラクロエチレン	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.0005	—	—	—
ジクロロメタン	mg/L	0.02mg/L以下	—	—	<0.002	—	—	—
四塩化炭素	mg/L	0.002mg/L以下	—	—	<0.0002	—	—	—
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.004mg/L以下	—	—	<0.0004	—	—	—
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.02mg/L以下	—	—	<0.002	—	—	—
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.04mg/L以下	—	—	<0.004	—	—	—
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	1mg/L以下	—	—	<0.0005	—	—	—
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.006mg/L以下	—	—	<0.0006	—	—	—
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.002mg/L以下	—	—	<0.0002	—	—	—
ベンゼン	mg/L	0.01mg/L以下	—	—	<0.001	—	—	—
シマジン	mg/L	0.003mg/L以下	—	—	<0.0003	—	—	—
チウラム	mg/L	0.006mg/L以下	—	—	<0.0006	—	—	—
チオベンカルブ	mg/L	0.02mg/L以下	—	—	<0.002	—	—	—
硝酸性・亜硝酸性窒素	mg/L	10mg/L以下	—	—	0.97	—	—	—

※:「水質汚濁に係る環境基準について(昭和46年12月28日、環境庁告示第59号)」

## 1-1-2 雨水排水

### (1) 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表3-1-4に示したとおりである。

表3-1-4 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成21年 5月 18日 平成21年 7月 22日 平成21年 10月 1日 平成22年 2月 2日	雨水排水

### (2) 調査地点

調査地点は前掲の図3-1-1に示したとおり、2ヶ所の調整池（A、B）出口とした。

### (3) 調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は、表3-1-5に示したとおりである。

表3-1-5 調査項目及び分析方法

調査項目	分析方法
水素イオン濃度(pH)	JIS K0102 12.1
生物化学的酸素要求量(BOD)	JIS K0102 21 及び 32.3
全窒素	JIS K0102 45.4
全燐	JIS K0102 46.3

(4) 調査結果

調査の結果は表3-1-6に示したとおりであり、調整池Aでは、pHは7.2~7.8、BODは2.2~3.9mg-0/L、全窒素は0.63~1.0mg-N/L、全燐は0.027~0.044mg-P/L、調整池Bでは、pHは7.4~8.2、BODは1.2~2.9mg-0/L、全窒素は0.61~0.81mg-N/L、全燐は0.016~0.040mg-P/Lであった。

なお、参考として昨年度の調査結果を表3-1-7に示したが、今回の値は昨年度と概ね同程度の値であった。

採水の調査状況は資料編の写真1-2-1~8に示したとおりである。

表3-1-6 調整池出口における調査結果

項目	単位	調整池A				調整池B			
		5月18日	7月22日	10月1日	2月2日	5月18日	7月22日	10月1日	2月2日
pH	—	7.8	7.6	7.5	7.2	8.2	8.0	8.2	7.4
BOD	mg-0/L	2.2	2.4	2.5	3.9	1.2	2.9	1.6	1.7
全窒素	mg-N/L	0.63	0.75	1.0	1.0	0.81	0.67	0.61	0.70
全燐	mg-P/L	0.027	0.044	0.038	0.036	0.027	0.040	0.016	0.025
水温	℃	23.0	25.0	22.3	7.5	23.5	25.8	23.1	7.3
気温	℃	27.5	30.0	23.0	10.5	26.8	30.0	23.0	10.0

表3-1-7 調整池出口における調査結果（参考：平成20年度）

項目	単位	調整池A				調整池B			
		5月12日	8月26日	10月6日	2月20日	5月12日	8月26日	10月6日	2月20日
pH	—	7.6	7.4	7.4	7.3	8.1	8.0	7.8	7.7
BOD	mg-0/L	1.7	1.2	1.2	2.2	1.1	2.0	1.3	1.5
全窒素	mg-N/L	0.67	1.0	0.82	0.82	0.73	1.0	0.73	1.3
全燐	mg-P/L	0.037	0.036	0.033	0.045	0.026	0.039	0.032	0.074
水温	℃	17.5	23.1	20.5	8.0	17.8	23.6	20.4	9.2
気温	℃	17.0	24.8	21.8	11.0	17.0	24.5	21.6	12.5

### 1-1-3 水道水源

#### (1) 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表3-1-8に示したとおりである。

表3-1-8 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成21年 4月24日 平成21年 5月14日	水道水一般検査項目
平成21年 6月17日	水道水一般検査項目 水道水精密検査項目
平成21年 7月29日 平成21年 8月20日 平成21年 9月14日 平成21年 10月23日 平成21年 11月19日 平成21年 12月21日 平成22年 1月19日 平成22年 2月23日 平成22年 3月17日	水道水一般検査項目

#### (2) 調査地点

調査地点は前掲の図3-1-1に示したとおり、第1水源において調査を実施した。

#### (3) 調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は、表3-1-9に示したとおりである。

表 3-1-9 調査項目及び分析方法

調査項目	分析方法
一般細菌	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 1
大腸菌群	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 2
塩化物イオン	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 13
有機物 (TOC)	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 30
pH 値	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 31
臭気	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 34
色度	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 36
濁度	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 41
残留塩素	平成 15 年厚生労働省告示第 318 号 別表第 1
カドミウム	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6
水銀	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 7
セレン	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6
鉛	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6
ヒ素	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6
六価クロム	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6
シアン	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 12
硝酸性及び亜硝酸性窒素	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 13
フッ素	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 13
ホウ素	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6
四塩化炭素	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 14
1,4-ジオキサン	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 14
シス及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 14
ジクロロメタン	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 14
テトラクロロエチレン	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 14
トリクロロエチレン	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 14
ベンゼン	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 14
亜鉛	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6
アルミニウム	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6
鉄	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 5
銅	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6
ナトリウム	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 5
マンガン	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 6
カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 22
蒸発残留物	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 23
陰イオン界面活性剤	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 24
ジエオキシ	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 26
2-メチルイソボルネオール	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 26
非イオン界面活性剤	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 28
フェノール類	平成 15 年厚生労働省告示第 261 号 別表第 29

#### (4) 調査結果

調査の結果は表 3-1-10 に示したとおりであり、全ての項目、調査日とも、水質基準を満足していた。

また、年 1 回実施した精密検査項目では、フッ素、ホウ素、ナトリウム、カルシウム・マグネシウム等（硬度）、蒸発残留物が検出されたが、いずれもその値は小さく、水質基準を満足していた。

採水の調査状況は資料編の写真 1-3-1～12 に示したとおりである。

表3-1-10(1) 水道水源調査結果(平成21年4月~9月)

項目	単位	基準値※	平成21年					
			4月24日	5月14日	6月17日	7月29日	8月20日	9月14日
一般細菌	個/mL	100以下	0	0	18	0	7	4
大腸菌	—	検出されないこと	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
塩化物イオン	mg/L	200以下	11.5	8.4	11.6	7.2	6.6	10.3
有機物(TOC)	mg/L	5以下	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3
pH値	—	5.8以上 8.6以下	6.7	6.9	7.1	6.9	6.8	7.0
臭気	—	異常でないこと	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
色度	度	5以下	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
濁度	度	2度以下	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
残留塩素	mg/L		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	mg/L	10以下	1.0	0.9	0.9	0.8	1.0	0.8
カドミウム及びその化合物	mg/L	0.01以下	—	—	<0.001	—	—	—
水銀及びその化合物	mg/L	0.0005以下	—	—	<0.00005	—	—	—
セレン及びその化合物	mg/L	0.01以下	—	—	<0.001	—	—	—
鉛及びその化合物	mg/L	0.01以下	—	—	<0.001	—	—	—
ヒ素及びその化合物	mg/L	0.01以下	—	—	<0.001	—	—	—
六価クロム化合物	mg/L	0.05以下	—	—	<0.005	—	—	—
シアン化物イオン及び塩化シアン	mg/L	0.01以下	—	—	<0.001	—	—	—
フッ素及びその化合物	mg/L	0.8以下	—	—	0.14	—	—	—
ホウ素及びその化合物	mg/L	1.0以下	—	—	0.03	—	—	—
四塩化炭素	mg/L	0.002以下	—	—	<0.0002	—	—	—
1,4-ジクロロベンゼン	mg/L	0.05以下	—	—	<0.005	—	—	—
シス及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.04以下	—	—	<0.001	—	—	—
ジクロロメタン	mg/L	0.02以下	—	—	<0.001	—	—	—
テトラクロロエチレン	mg/L	0.01以下	—	—	<0.001	—	—	—
トリクロロエチレン	mg/L	0.03以下	—	—	<0.001	—	—	—
ベンゼン	mg/L	0.01以下	—	—	<0.001	—	—	—
亜鉛及びその化合物	mg/L	1.0以下	—	—	<0.005	—	—	—
アルミニウム及びその化合物	mg/L	0.2以下	—	—	<0.02	—	—	—
鉄及びその化合物	mg/L	0.3以下	—	—	<0.03	—	—	—
銅及びその化合物	mg/L	1.0以下	—	—	<0.01	—	—	—
ナトリウム及びその化合物	mg/L	200以下	—	—	8.5	—	—	—
マンガン及びその化合物	mg/L	0.05以下	—	—	<0.005	—	—	—
カルシウム、マグネシウム等(硬度)	mg/L	300以下	—	—	38	—	—	—
蒸発残留物	mg/L	500以下	—	—	94	—	—	—
陰イオン界面活性剤	mg/L	0.2以下	—	—	<0.02	—	—	—
ジエオキシン	mg/L	0.00001以下	—	—	<0.000001	—	—	—
2-メチルイソボルネオール	mg/L	0.00001以下	—	—	<0.000001	—	—	—
非イオン界面活性剤	mg/L	0.02以下	—	—	<0.005	—	—	—
フェノール類	mg/L	0.005以下	—	—	<0.0005	—	—	—

※:「水質基準に関する省令」(平成15年5月30日、厚労令101)



表 3-1-10(2) 水道水源調査結果 (平成 21 年 10 月～平成 22 年 3 月)

項目	単位	基準値※	平成 21 年			平成 22 年		
			10月23日	11月19日	12月21日	1月19日	2月23日	3月17日
一般細菌	個/mL	100 以下	0	0	3	0	0	5
大腸菌	—	検出されな いこと	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
塩化物イオン	mg/L	200 以下	8.8	9.1	8.6	10.6	16.5	11.0
有機物 (TOC)	mg/L	5 以下	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	0.3	<0.3
pH 値	—	5.8 以上 8.6 以下	7.2	7.3	6.8	7.1	7.2	7.1
臭気	—	異常でない こと	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
色度	度	5 以下	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
濁度	度	2 度以下	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
残留塩素	mg/L		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	mg/L	10 以下	1.4	1.2	1.1	1.2	1.2	1.1

※：「水質基準に関する省令」(平成 15 年 5 月 30 日、厚労令 101)

## 2. 悪 臭

### 2-1 調査概要

施設の供用に伴い、施設から発生する悪臭が周辺集落に影響を及ぼす恐れがあること及び、当該地域が、悪臭防止法第3条の規定に基づく工場その他の事業場における事業活動に伴って発生する悪臭原因物の排出を規制する地域に指定されていることから、事業実施区域の風下側敷地境界において調査を実施した。

### 2-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表3-2-1に示したとおりである。

表3-2-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成22年2月25日	施設供用時における悪臭調査

### 2-3 調査地点

調査地点は、図3-2-1に示したとおり調査当日の風向（北北西）を考慮し、事業実施区域敷地境界の風下側の1地点とした。

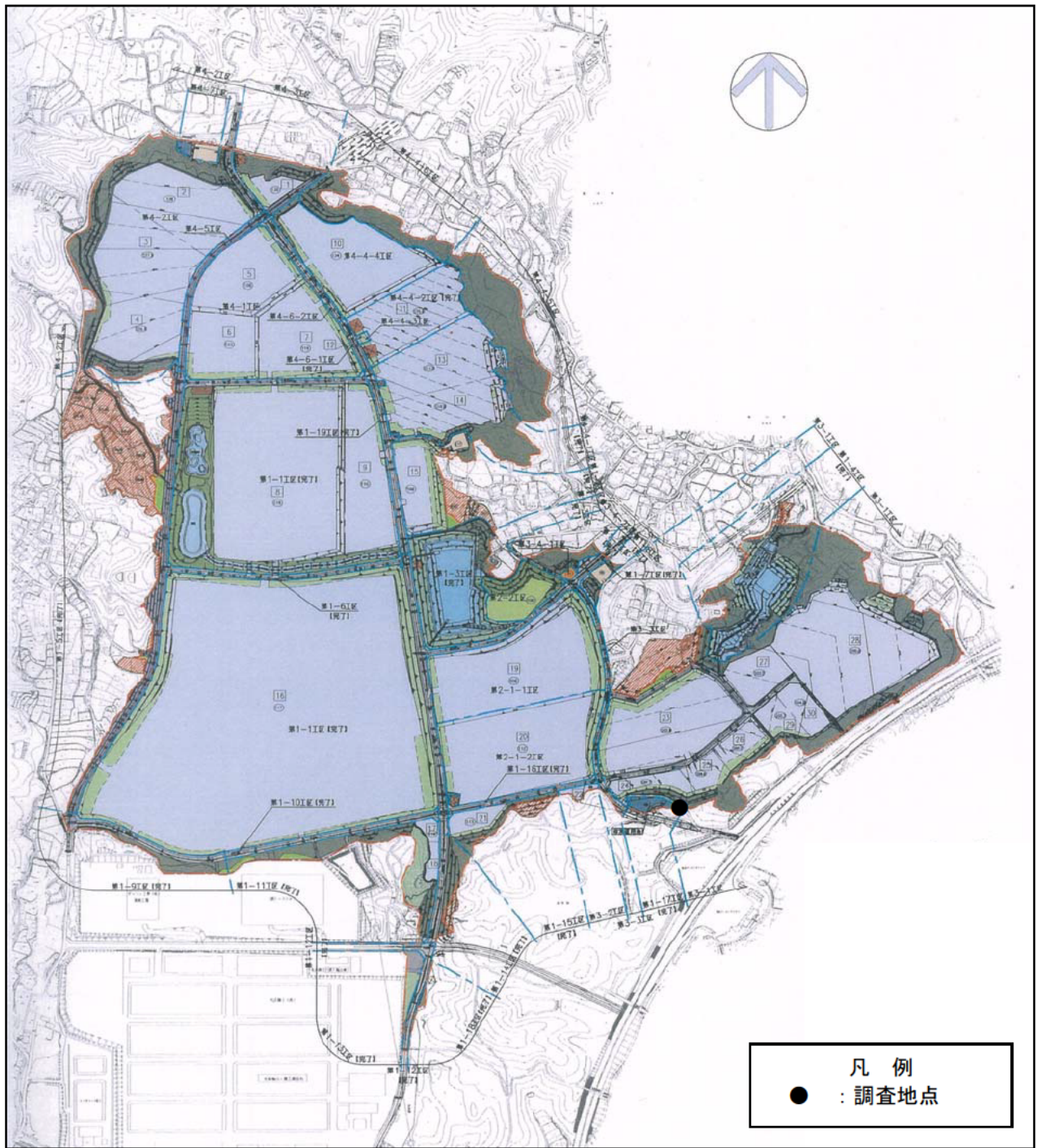


图 3-2-1 恶臭調査地点

## 2-4 調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は、表3-2-2に示したとおりである。

表3-2-2 調査方法及び分析方法

項目		分析方法
アンモニア		昭和47年環境庁告示第9号別表第1
メチルメルカプタン 硫化水素 硫化メチル 二硫化メチル		昭和47年環境庁告示第9号別表第2
トリメチルアミン		昭和47年環境庁告示第9号別表第3
アセトアルデヒド プロピオンアルデヒド ノルマルブチルアルデヒド イソブチルアルデヒド ノルマルバレルアルデヒド イソバレルアルデヒド		昭和47年環境庁告示第9号別表第4の1
イソブタノール		昭和47年環境庁告示第9号別表第5
酢酸エチル メチルイソブチルケトン		昭和47年環境庁告示第9号別表第6の2
トルエン スチレン キシレン		昭和47年環境庁告示第9号別表第7の2
プロピオン酸 ノルマル酪酸 ノルマル吉草酸 イソ吉草酸		昭和47年環境庁告示第9号別表第8
気 象	風 向	地上気象観測指針（気象庁）による
	風 速	
	気 温	
	湿 度	

## 2-5 調査結果

調査の結果、表3-2-3に示したとおり、全ての項目で定量下限値未満であり、敷地境界における規制基準を満足していた。

なお、調査状況の写真は、資料編の写真2-1に示したとおりである。

表 3-2-3 調査結果

項目	単位	排出規制基準※	調査結果	
アンモニア	ppm	1 以下	<0.1	
メチルカブタン	ppm	0.002 以下	<0.0002	
硫化水素	ppm	0.02 以下	<0.002	
硫化メチル	ppm	0.01 以下	<0.002	
二硫化メチル	ppm	0.009 以下	<0.0009	
トリメチルアミン	ppm	0.005 以下	<0.0005	
アセトアルデヒド	ppm	0.05 以下	<0.01	
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05 以下	<0.01	
ホルムアルデヒド	ppm	0.009 以下	<0.002	
イソブチルアルデヒド	ppm	0.02 以下	<0.002	
ホルムアルデヒド	ppm	0.009 以下	<0.002	
イソブチルアルデヒド	ppm	0.003 以下	<0.002	
イソブタノール	ppm	0.9 以下	<0.09	
酢酸エチル	ppm	3 以下	<0.3	
メチルイソブチルケトン	ppm	1 以下	<0.1	
トルエン	ppm	10 以下	<1	
スチレン	ppm	0.4 以下	<0.04	
キシレン	ppm	1 以下	<0.1	
プロピオン酸	ppm	0.03 以下	<0.003	
ノルマル酪酸	ppm	0.001 以下	<0.0005	
ノルマル吉草酸	ppm	0.0009 以下	<0.0005	
イソ吉草酸	ppm	0.001 以下	<0.0005	
気象	天候	—	—	曇り
	気温	℃	—	13.6
	湿度	%	—	73
	風向	—	—	Calm
	風速	m/s	—	<0.5

※排出規制基準：悪臭防止法の規定に基づく規制地域の指定及び規制基準(平成10年7月10日三重県告示第323号)

### 3. 特筆すべき植物

#### 3-1 調査概要

平成 16 年度に第 3 期工事区域から移植した特筆すべき植物の 5 年後の活着確認調査及び平成 18 年度に第 4 期工事区域から移植をした特筆すべき植物の移植 3 年後の活着確認調査を実施した。

また、移植地において、除草等の移植地管理作業を行った。

#### 3-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 3-3-1 に示したとおりである。

表 3-3-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成 21 年 6 月 12 日	特筆すべき植物活着確認調査（5 年後） 特筆すべき植物活着確認調査（3 年後）
平成 21 年 4 月 27 日 平成 21 年 5 月 11 日 平成 21 年 6 月 12 日 平成 21 年 7 月 23 日 平成 21 年 8 月 24 日 平成 21 年 9 月 25 日 平成 21 年 10 月 7 日 平成 22 年 3 月 17 日	移植地管理

#### 3-3 調査位置

活着確認調査位置は、図 3-3-1 に示した特筆すべき植物移植地のうちの No. 2 で実施した。

また、管理作業も同地点において実施した。

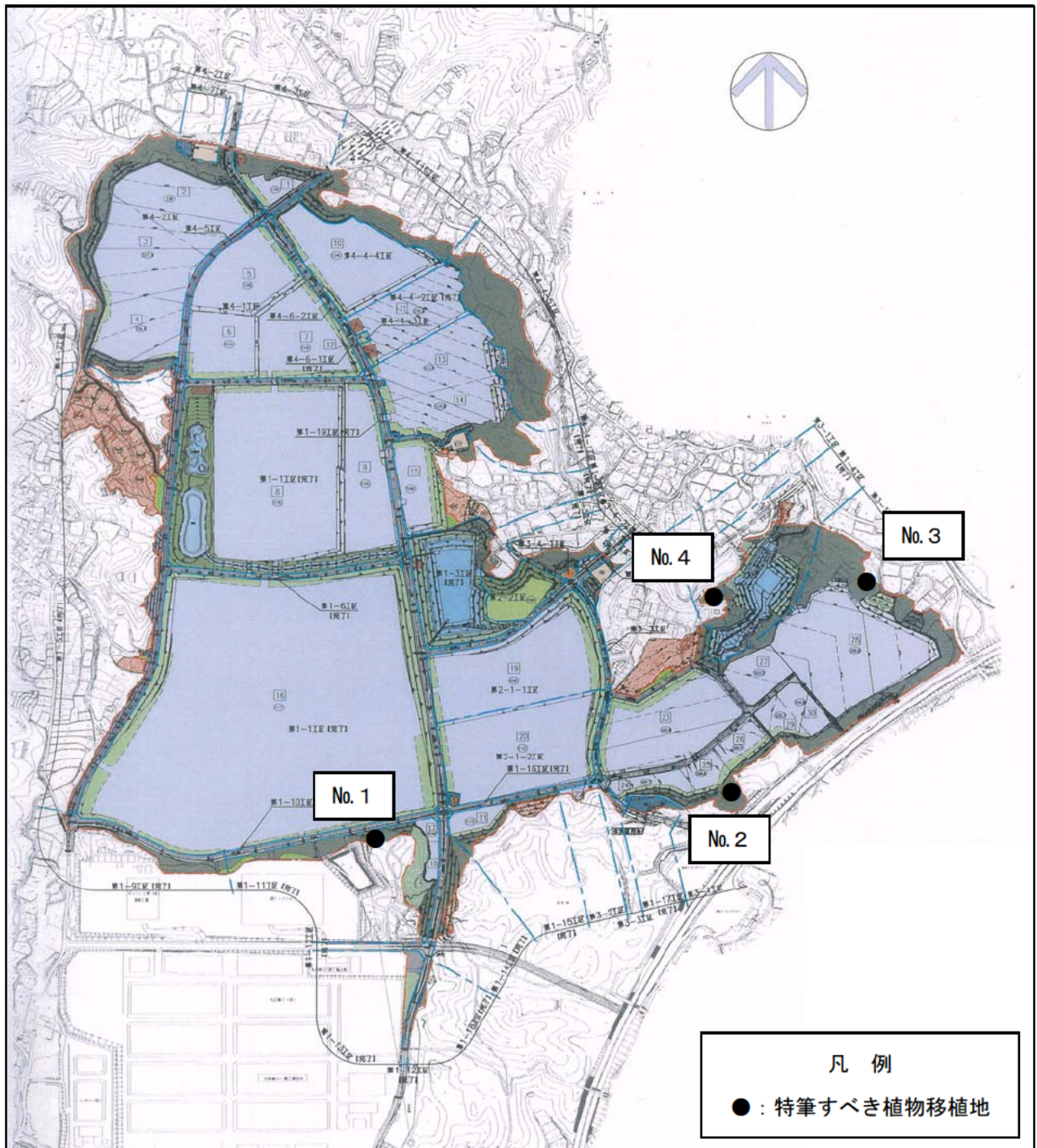


図 3 - 3 - 1 特筆すべき植物活着確認調査場所及び移植地管理作業実施場所

### 3-4 調査結果

特筆すべき植物の活着状況は表3-3-2に示したとおりである。

平成16年7月に移植したササユリ、オオイワカガミ、ミヤコアオイ、シライトソウの4種については、生育確認株数が若干減ったものの、生育状態はいずれも良好で、シライトソウについては開花も見られた。

平成18年4月に移植したササユリについては、5月に実施した除草作業時には小株ながらも生育を確認していたが、本調査時には生育は確認できなかった。

また、移植を行った種の生育を良好に保つため、移植地について除草等の管理作業を行った。

活着調査の調査状況は資料編の写真3-1～4に、除草作業は写真3-5～20に示したとおりである。

表3-3-2(1) 特筆すべき植物の活着状況（5年後：平成16年7月移植分）

移植地	種名	移植株数	5年後	確認状況
No.2	ササユリ	1株	1株	小株で開花はないが、生育は良好
	オオイワカガミ	4株	3株	生育は良好
	ミヤコアオイ	5株	5株	生育は良好
	シライトソウ	9株	7株	生育は良好 3株開花あり

表3-3-2(2) 特筆すべき植物の活着状況（3年後：平成18年4月移植分）

移植地	種名	移植株数	3年後	確認状況
No.2	ササユリ	4株	不明	5月に草刈りを実施した時には4株（小株）の生育を確認



#### 4. 陸生動物（鳥類相）

##### 4-1 調査概要

施設供用後の鳥類相を把握するため、春季に調査を実施した。

##### 4-2 調査年月日及び調査方法

調査年月日及び調査方法は表3-4-1に示したとおりである。

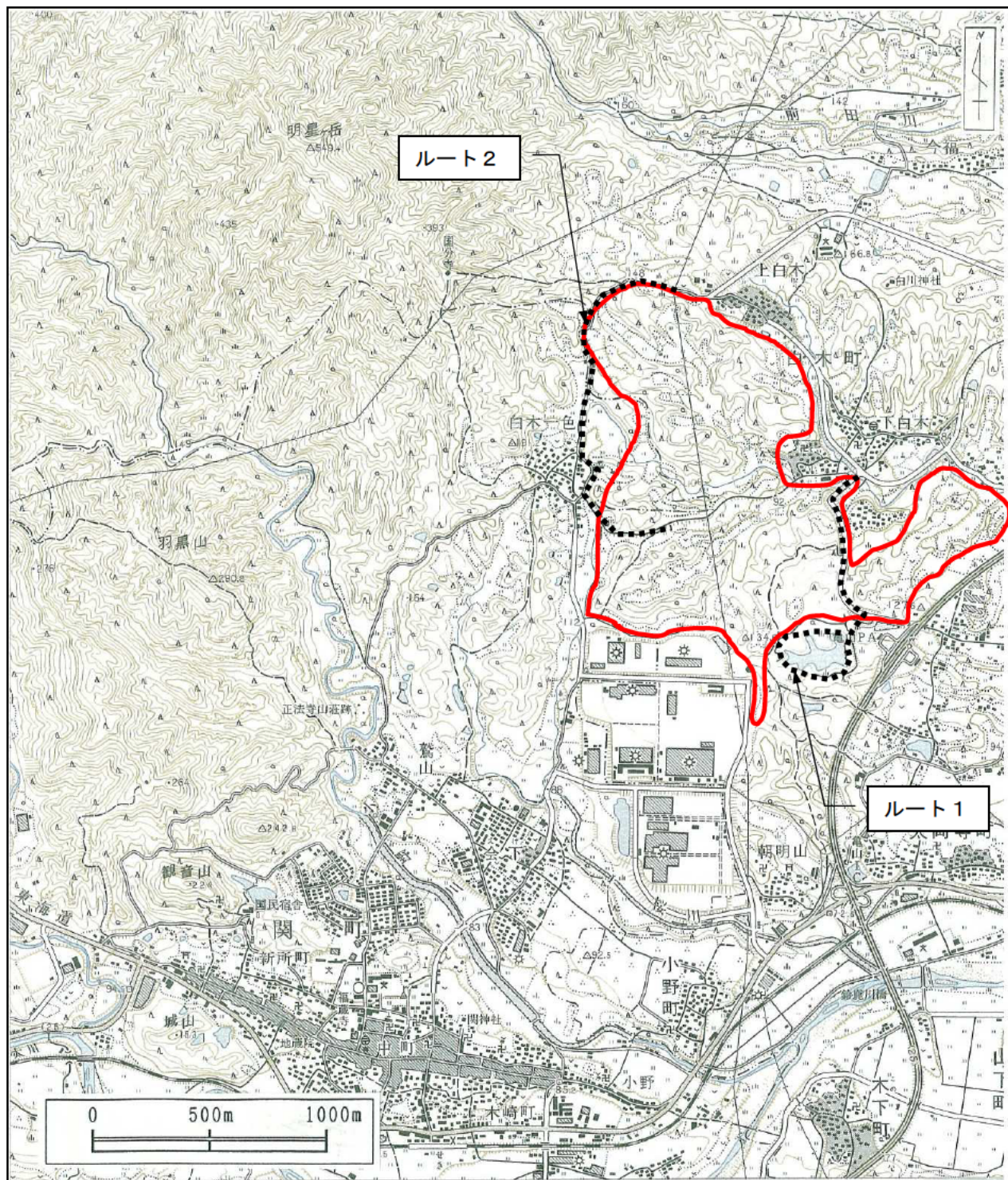
なお、調査はルートセンサス調査とし、予め設定したルートを時速2km程度の速さで踏査し、片側25m（両側で50m）の範囲内に出現する鳥類の種及び個体数を記録した。

表3-4-1 調査年月日及び調査方法

時季	調査年月日	調査方法
春季	平成21年5月14日	ルートセンサス法

##### 4-3 調査範囲及び踏査ルート

調査範囲は、図3-4-1に示したとおりであり、事業実施区域北側及び南側の残存緑地や事業実施区域周辺を通る2ルートを設定した。



凡例

- .....: 踏査ルート
- : 事業実施区域

図3-4-1 鳥類相踏査ルート

#### 4-4 調査結果

調査の結果、表3-4-2に示したとおり、5目17科20種の鳥類を確認した。

確認した鳥類20種のうち、留鳥が18種とほとんどを占め、他、夏鳥のツバメ1種、外来種(家禽類)のカワラバト1種であった。

確認種は、当該地域の環境を反映して、里山から低山地にかけて普通に見られる種で構成されていた。

目別に見てみると、スズメ目が16種と最も多く確認し、その他、カモ目、キジ目、キツツキ目、ハト目はそれぞれ1種のみ確認であった。

なお、調査状況は、資料編の写真4-1～2に示したとおりである。

表3-4-2 鳥類確認種一覧

目	科	種名	学名	渡り区分	ルート1	ルート2
カモ	カモ	カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	留鳥	1	
キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	留鳥		1
キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	留鳥	1	1
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	留鳥	1	1
		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	夏鳥	3
		コシヤカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	夏鳥		1
	セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	留鳥		1
		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	留鳥		1
		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	留鳥	3	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	留鳥	11	5
	ツグミ	イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	留鳥		1
	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	留鳥		3
	エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	留鳥	2	
	シジュウカラ	ヤマカウラ	<i>Parus varius</i>	留鳥		1
	メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	留鳥	6	
	ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	留鳥	5	3
	アトリ	カラヒトリ	<i>Carduelis sinica</i>	留鳥	5	2
ハタオリドリ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	留鳥	16	3	
カラス	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	留鳥		2	
ハト	ハト	カラバト	<i>Columba livia</i>	外来種	4	
5目17科20種				種数	12	15
				個体数	58	27

※「渡り区分」については、「三重県立博物館研究報告 自然科学第1号 2. 三重県の鳥類相(1979.3、三重県立博物館)」によった。

#### 4-5 鳥群集の多様度

ルートセンサス調査結果に基づき、全多様度（I）及び平均多様度（H'）を求め、調査時季毎、ルート毎に群集構造の複雑さを比較した。

算出に用いた式は次に示すとおりであり、これにより求められた多様度指数は表3-4-3に示したとおりである。

平均多様度（H'）の数値が高いことは、その群集が特定の種に偏ることなく複雑であることを表している。

今回の調査の結果、ルート2がルート1よりも平均多様度（H'）の値が大きい結果であった。

種数や個体数で見ると、ルート1の場合、種数はルート2より少なく、個体数はルート2より多い結果であった。そのことから、ルート1は特定の種に個体数が偏ったと見られ、結果ルート2の方が多様であると考えられた。

今回の調査結果を現況調査と比較すると、ルート1は今回の調査が、ルート2は現調査当時のほうの種数・個体数が多い結果であったが、現況調査時のルート1、8とも出現状況に偏りがあったものと思われ、平均多様度（H'）は今回の結果の方が高い結果となった。

一方、昨年の結果と比較すると、種数、個体数、多様度の値とも昨年と同程度で、現況調査当時よりも多様な状況であることが伺える。

このことから、今回調査を実施した緑地では、現況調査当時よりも生息する鳥類の種構成が多様になり、さらにその環境が維持されているものと考えられた。

ブライロンの情報量方程式（単位：ビット）

$$\text{全多様度 (I)} = \frac{N!}{n_1! n_2! \cdots n_s!}$$

シャノン・ウィーバーの平均多様度（H'）（単位：ビット）

$$\text{平均多様度 (H')} = -\sum_{i=1}^s \frac{n_i}{N} \log_2 \frac{n_i}{N}$$

但し  $n_i$  : 種  $i$  の個体数、 $N$  : 総個体数、 $S$  : 種類数

表3-4-3 ラインセンスにおける各ルートの多様度指数

	春 季					
	平成 21 年度		平成 20 年度 事後調査		平成 19 年度 事後調査	
	ルート 1	ルート 2	ルート 1	ルート 2	ルート 1	ルート 2
種類数 (S)	12	15	12	14	11	15
総個体数 (N)	58	27	55	30	44	31
平均多様度 ( $H'$ )	3.1	3.6	2.9	3.7	3.0	3.6

	春 季					
	平成 17 年度 事後調査		平成 16 年度 事後調査		現況調査時	
	ルート 1	ルート 2	ルート 1	ルート 2	ルート 1	ルート 8
種類数 (S)	20	11	14	19	10	19
総個体数 (N)	58	38	39	63	30	73
平均多様度 ( $H'$ )	4.0	3.1	3.5	3.8	1.2	2.4

※事後調査における「ルート1」が現況調査時の「ルート1」に、同じく「ルート2」が「ルート8」にそれぞれ類似した踏査ルートになる。

## 5. 特筆すべき動物

### 5-1 調査概要

第1期工区の事業の実施が、特筆すべき動物の生息に与える影響を把握するために調査を実施した。

### 5-2 オオタカ

#### 5-2-1 調査年月日及び調査方法、調査対象種

調査年月日及び調査方法、調査対象種は表3-5-1に示したとおりである。

過去に営巣の確認記録のあるオオタカについては、繁殖期における調査も実施した。

調査は、定点観察により行い、対象種が確認された場合には各調査員が無線機を用いて連絡を取り合い、より詳細に行動を記録することとした。

調査にあたっては、8倍程度の双眼鏡及び25倍程度の望遠鏡を用いた。

表3-5-1 調査年月日及び調査方法

調査年月日	調査時間	調査方法
平成21年4月27日 平成21年5月12日 平成21年6月9日 平成21年7月28日	8:00~16:00	定点観察調査

#### 5-2-2 調査地点及び調査範囲

調査地点は表3-5-2及び図3-5-1に示したとおりであり、今後の新たな開発（関工区）に着手するための事前調査として、関工区内でのオオタカの繁殖状況が確認できるよう地点を設定した。

表3-5-2 調査地点

調査年月日	調査地点
平成21年4月27日 平成21年5月12日	地点1~4
平成21年6月9日 平成21年7月28日	地点2~4、5

### 5-2-3 調査結果

オオタカの繁殖期を対象とした平成21年4月から7月の調査の結果、本種の生息及び繁殖を確認することはできなかった。

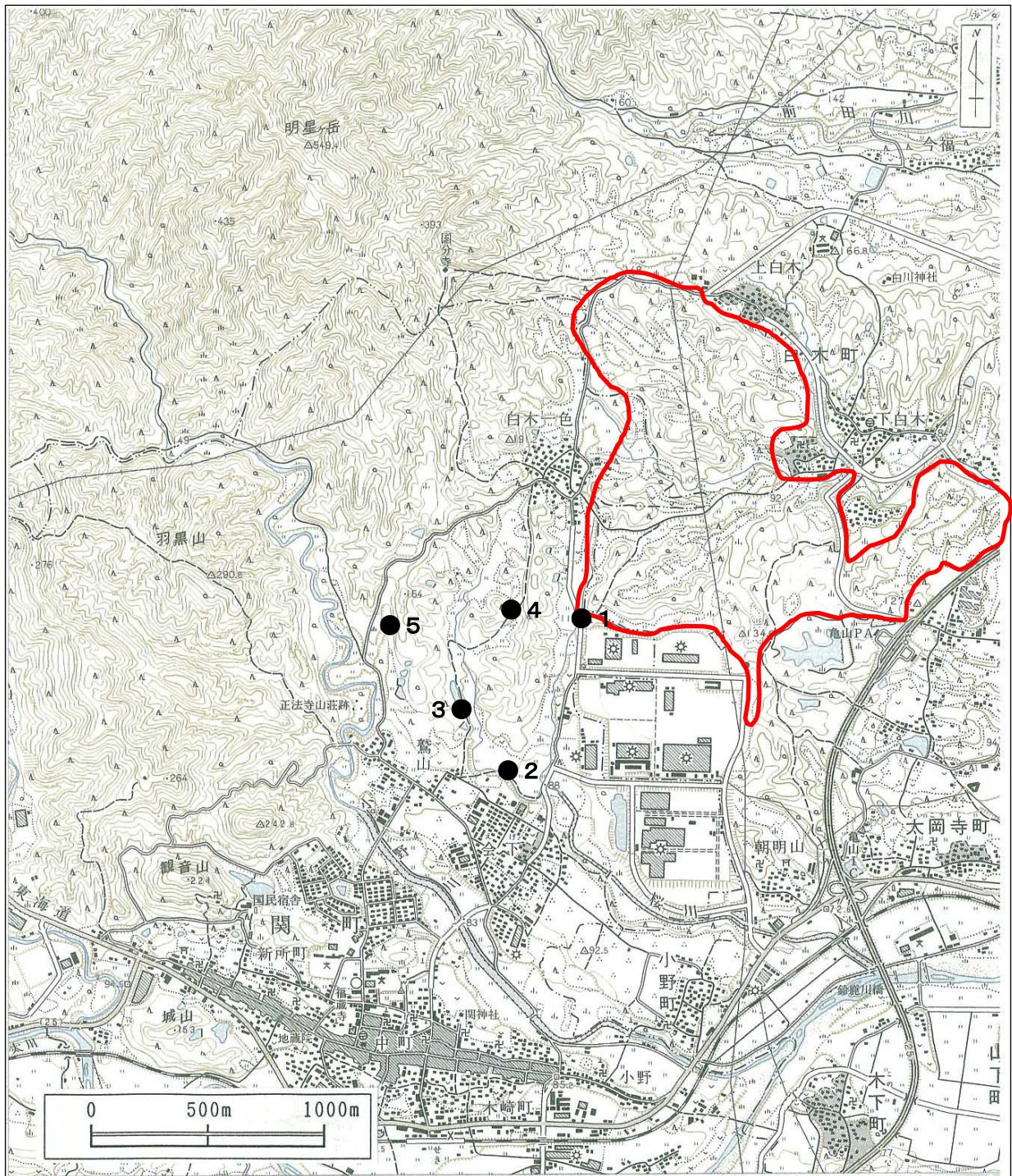
なお、本事後調査を開始した平成14年度以降のオオタカ等の確認状況は表3-5-3に示したとおりである。

調査状況は、資料編の写真5-3～18に示したとおりである。

表3-5-3 対象種確認状況

対象種	H21	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14
オオタカ	×	○	—	×	—	○	○	○

※：確認状況の「○」は生息を確認、「×」は確認できず、「—」は調査を実施していないことを示す。



凡 例

● : 定点観察地点 (オオタ力繁殖期調査)

□ : 事業実施区域

図 3 - 5 - 1 オオタ力調査地点



### 5-3 モリアオガエル

#### 5-3-1 調査年月日及び調査内容

平成16年度に卵塊を移殖した溜池（2ヶ所）と、事業実施区域内（1ヶ所：未着工区域内）及び隣接する溜池（2ヶ所）においてモリアオガエルの生息確認調査（卵塊確認調査）を実施した。

また、事業実施区域内の溜池において卵塊を確認した場合には可能な限り移殖を行うこととした。

調査年月日及び調査内容は表3-5-4に示したとおりである。

表3-5-4 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成21年7月7日	生息（卵塊）確認調査及び移殖調査

#### 5-3-2 調査場所

調査場所は図3-5-2に示した第1期工区内の溜池とした。

#### 5-3-3 調査方法

溜池周囲の樹林等を目視により観察し、本種の卵塊の有無について調査した。また、確認した卵塊は出来る限り採集（高所にあり採集不能な卵塊等を除く）し、2ヶ所の溜池に移殖した。

#### 5-3-4 調査結果

調査を行った移殖池以外の溜池3ヶ所のうち、事業実施区域内の溜池において計18卵塊を確認した。

また、移殖池では、北側の溜池（事業実施区域内）で6卵塊を確認し、西側の溜池（事業実施区域に隣接）では4卵塊を確認した。

北側の溜池（移殖池）では表3-5-5に示したとおり、継続して卵塊を確認しており、同池に定着したとも考えられるが、確認卵塊数が減少しているため、今後も継続して調査を実施していくこととする。

なお、事業実施区域内の溜池で確認した22卵塊のうち、今回の調査では3卵塊が採取できたため、西側の移殖池に移殖を行った。

確認位置及び卵塊数等は図3-5-3に示したとおりである。

調査状況は、資料編の写真5-19、20に示したとおりである。

表3-5-5(1) モリアオガエル確認状況

	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度
確認地点数	3	2	3	7
確認卵塊数	28 (うち、3卵塊移殖)	17 (うち、3卵塊移殖)	13 (移殖卵塊なし)	26 (うち、8卵塊移殖)
移殖池(北側)確認卵塊数	6	4	3	5
移殖池(西側)確認卵塊数	4	0	0	0

※1：「確認地点数」には、「移殖池」も含む。

※2：「確認卵塊数」には、「移殖池」での確認卵塊数も含む。

※3：「移殖池での確認卵塊数」には、その日に移殖した卵塊は含まない。

表3-5-5(2) モリアオガエル確認状況

	平成17年度	平成16年度	平成15年度	平成14年度
確認地点数		13	11	16
確認卵塊数	移殖池のみ調査を実施	137 (うち、118卵塊移殖)	52	69
移殖池(北側)確認卵塊数	11	移殖池での調査は実施していない	移殖池での調査は実施していない	移殖池での調査は実施していない
移殖池(西側)確認卵塊数	1			

※1：「確認地点数」には、「移殖池」も含む。

※2：「確認卵塊数」には、「移殖池」での確認卵塊数も含む。

※3：「移殖池での確認卵塊数」には、その日に移殖した卵塊は含まない。

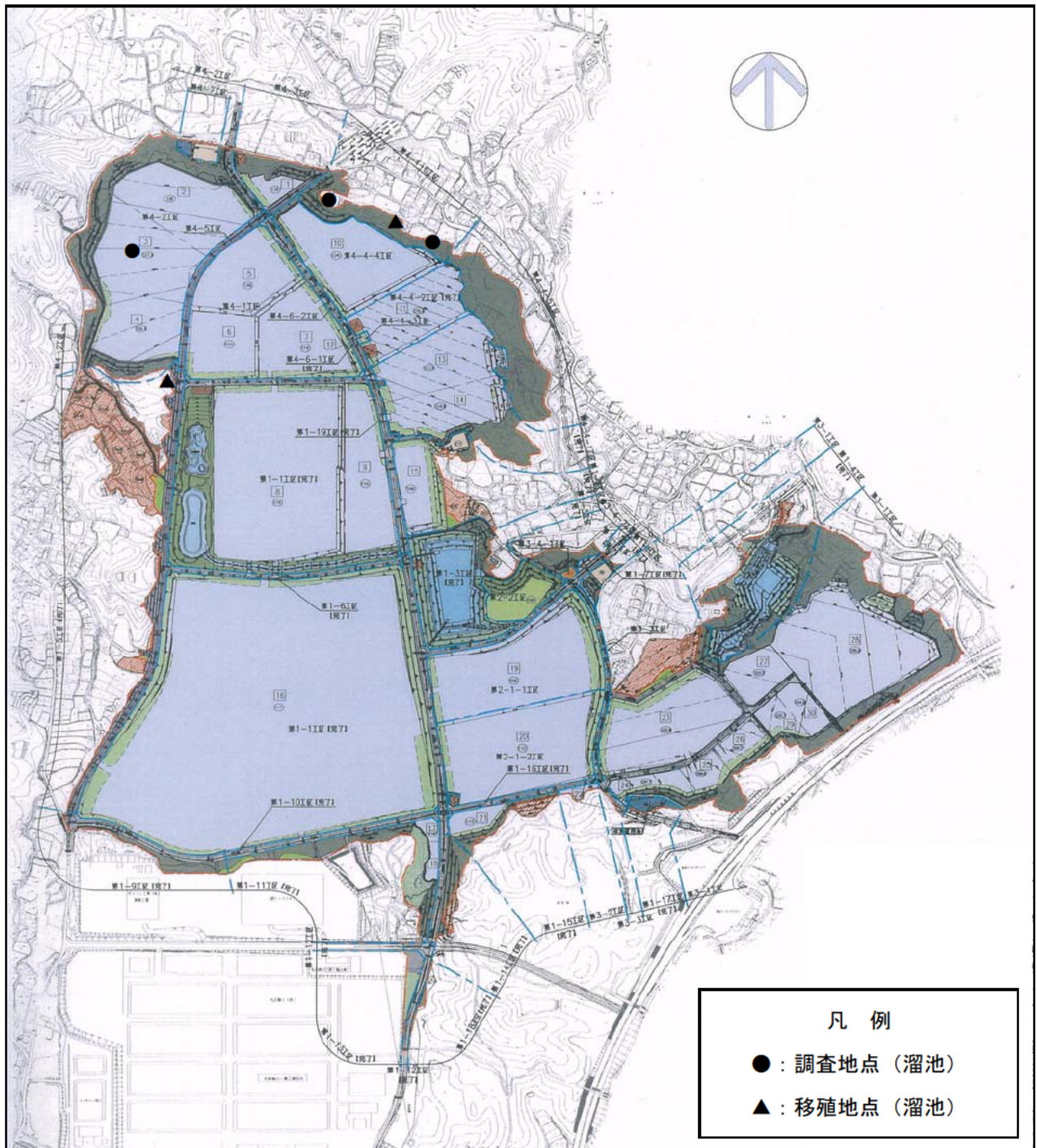


図3-5-2 モリアオガエル調査場所

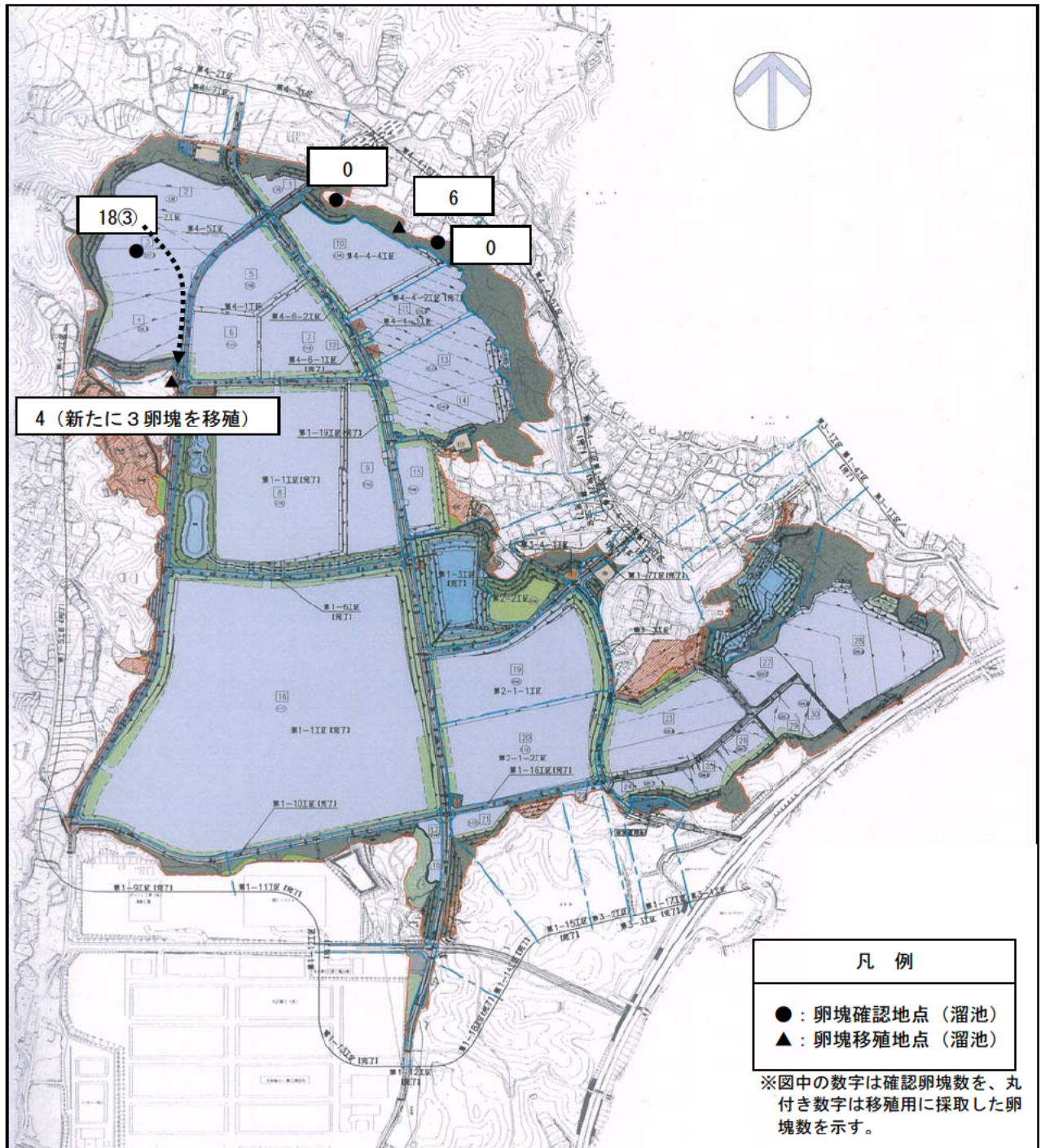


図 3-5-3 モリアオガエル卵塊確認地点及び卵塊移殖地点

## 第5章 事後調査を担当した者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在

区分	調査項目	調査機関の名称等
事後調査	水質 悪臭 特筆すべき植物 陸生動物 特筆すべき動物	財団法人 三重県環境保全事業団 理事長 油家 正 三重県津市河芸町上野 3258 番地



# 資料編

## <調査状況写真>

第1期工区供用後に係る調査

- 1 水質
- 2 特筆すべき植物
- 3 鳥類相
- 4 特筆すべき動物

## <計量証明書(写)>





<調査状況写真>



<計量証明書(写)>